

朝日新聞 2012(平成24)年3月22日(木) ぶらりミュージアム

# ぶらり ミュージアム

## 佐賀県立博物館

冬から春にかけての今の時期、江戸時代の小川島では、鯨捕りが盛んに行われていました。この様子を伝える資料が、現在展示中の「小川嶋鯨鯢合戦」です。作者の豊秋亭里遊が「漁業のあらましをいにしへの戦場に比して……」と書いたように、中尾組という呼子を拠点とした鯨組の営みを合戦になぞらえ、軍記物語風に記したものです。

鯨を網代へ追い込み、ハザシと呼ばれる漁師が

小川嶋鯨鯢合戦

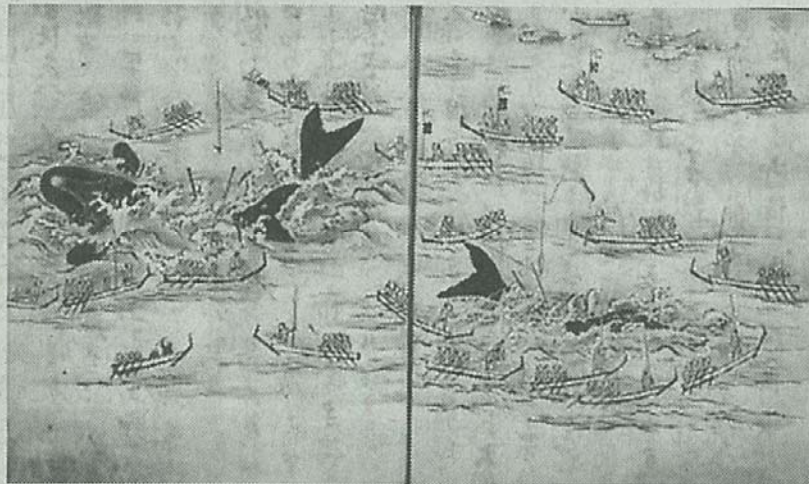
## 捕鯨人との「合戦」になぞらえ

銚子を打ち込み、さらに冷たい海に飛び込んで命がけで鯨を捕るという漁は、人間と鯨との「合戦」と呼ぶにふさわしい情景といえます。

しかし、作者はそうした場面以外にも、網や船を造り、漁のあとには鯨を解体し、鯨油を精製する、といった様々な手作業の場面を事細かに描いており、「鯨一頭捕れば七浦潤う」と言われた捕鯨という産業の巨大さを伝えてくれる資料といえます。

(佐賀県立博物館  
塩田寿子)

佐賀市城内1の15の23。電話0952・24・3947。バス停「博物館前」下車、徒歩1分。開館は午前9時半～午後6時。休館日は月曜。



1840(天保11)年制作、豊秋亭里遊編集、画工は溪柳舎希染。いくつかの写本があり、当館所蔵品は1860(安政7)年に大久保卯助が写したもので、和とじ本なので見開きのページしか展示できないため、所蔵品とともに53枚中絵図が入った31枚を印刷し展示。